

Title	教育ビジネスの可能性 - 高校教育市場の新しい課題 -
Sub Title	
Author	杉山, 大輔(Sugiyama, Daisuke) 山根, 節
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2003
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2003年度経営学 第1872号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002003-1872

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	山根 節 研究会	学籍番号	80228454	氏名	杉山 大輔
(論文題名)					
<h1>教育ビジネスの可能性</h1> <p>— 高校教育市場の新しい課題—</p>					
(内容の要旨)					
<p>近年、日本は大きな社会変化をしてきており、企業の求める人材も変化している。学校を「人材を供給する機関」として捉えた場合、果たして今日の社会に適応した教育をしているのだろうか？「ゆとり教育」が施行されて 20 年近く経つが、日本の教育は今危機に瀕している。それは 80 年代前半にレーガン政権下の米国教育省が発表した「危機に立つ国家」に示された様相に近似する。米国が創造型教育の反省から知識注入型への改革を始めた 83 年は、奇しくも日本が知識注入型教育から創造型教育に転換し「ゆとり教育」を始めた年だった。現在、指導内容はますます希薄化し考える力や基礎学力の低下が叫ばれ、明治以来の危機に直面している。</p> <p>学校教育だけでは不安を抱える保護者や生徒等は学校外教育である塾・予備校で学力をつけ、大学受験の勉強を目指す。「学力」という指標のみに重きを置き、「ゆとり教育」の「個を尊重する」目標は実行されず、「自分とは何者なのか？」「自分がわからない」という高校生が増えてきている。</p> <p>大学進学率が 49%となり、社会が目まぐるしい変化する現在、高校生には自分の進路を真剣に考える必要がでてきた。良い大学を卒業したから良い企業に入れる時代は終わった。自分として何ができるのかを考え、環境変化に対応できなければならない。高校生の「自分とは何か？」という状態は、帰国子女のアイデンティティクライシスと共通点が多い。</p> <p>推論として、帰国子女教育における重要テーマ「アイデンティティ形成」が今日の高校生全般に当てはまることを分析した。教育市場での今後の可能性として、高校生の進路形成時期において、「個」が「個」として自ら認識し、アイデンティティの形成をすることが必須だと考える。社会変化に対応できる人材には、「自分とは何者か、自分として何ができるか」という自己の確立が重要である。</p>					